

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 28 日現在

機関番号：12102

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2010～2011

課題番号：22820009

研究課題名（和文）バクーとエレバンにおける宗教的多様性とトランスナショナルな聖地に関する研究

研究課題名（英文）‘Revival of Religion’? Transnational Sacred Places in South Caucasian Cities

研究代表者

Dariyeva Tsypylma (DARIEVA TSYPYLMA)

筑波大学・人文社会系・准教授

研究者番号：60588292

研究成果の概要（和文）：南コーカサスの都市における国境をまたぐ少数民族の聖地の復活を調査することで、本研究は1つの場所が、植民地の過去の象徴として、ソ連近代主義の世俗的場所として、移民と地元民の多文化的場所として、多様に認識されていることを明らかにした。国の規制や社会的秩序の民族・国民的パラダイムにもかかわらず、トランスナショナルなモスクや教会は自分達の空間を要求し、その場所の意味の一般的な理解に疑義を呈することで都市の景観が再び多様化するのに貢献する。

研究成果の概要（英文）：By exploring the revival of transnational minority sacred places in South Caucasian cities the project revealed a multiplicity of readings of one place: as a landmark of colonial past, as a secular place of Soviet modernism, and as multicultural place for migrants and locals. In spite of state restrictions and ethno-national paradigms of social order, transnational mosques and churches claim for their own spaces and contribute to a re-diversification of urban landscapes by challenging the dominant reading of the place's meaning.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合 計 |
|--------|-----------|---------|-----------|
| 2010年度 | 1,040,000 | 312,000 | 1,352,000 |
| 2011年度 | 130,000 | 39,000 | 169,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総 計 | 1,170,000 | 351,000 | 1,521,000 |

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文化人類学、文化人類学・民俗学

キーワード：宗教の復活・ポスト社会主義・トランスナショナルな宗教・モスク・ロシア正教・都市空間・アルメニア・アゼルバイジャン

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究のアイデアは、アルメニアとアゼルバイジャンの社会主義体制後のディアスポラ復帰運動、ポスト社会主義の都市計画、公共空間の変容に関する研究代表者の先行研究（フンボルト大学、2006-2010）が基になっている。

(2) 民族アイデンティティとソ連の世俗主義のパラダイムは、宗教の過去と現在の共通表現を南コーカサスの文化的マーカーとしてかたちづくったが、新たな聖地が(ポスト)社会主義の都市公共空間にどう影響し変化をもたらしたかやこれらの聖地が公職者や旅行会社、地元の人や国境を越える人々の日常生活においてどう認識されているかにつ

いてはあまり注目されていない。

2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、少数派の代替的な聖地を調査することにより、宗教的空間の「復活」について研究することである。

(2) この研究は、ポスト社会主義の首都における宗教的表現、「宗教の顕著さ」、政治、について理解する上でのより綿密な洞察の基礎として役立つ。

3. 研究の方法

(1) 本研究では、アーカイブ・データの分析および様々な文化的表現（旅行ガイド、旅行本、地図、映像、建築、インテリア・デザイン）の分析を含むディスコース分析（メディアのウェブサイトおよび文献）も用いているが、方法の中心は、特定の場所における2か月の民族誌学フィールドワークであった。

(2) 地元の民族誌学者の協力による「都市フィールドワーク」において、視覚資料の収集・選択・分析、宗教活動の参与観察、地元の専門家や聖地訪問者へのインタビューなどが行われた。

4. 研究成果

(1) 本研究によって、以下のような一次資料データが収集された。

| 資料の種類 | エレバン | バクー |
|---------------------|-------------------------------------|--|
| インタビュー | 専門家・宗教指導者(4)、祈る人への質的インタビュー(7) | 専門家(2)、祈る人と訪問者への質的インタビュー(8) |
| 視覚資料 | 宗教集会のビデオ20分(2)、過去と現在の写真(50以上) | インテリアの内部と外部のイメージ(30)、ブックレット(3) |
| 参与観察のフィールド記録 | 助手によるフィールドワークレポート(65ページ) | 助手によるフィールドワークレポート(37ページ) |
| ガイドブック・旅行本・アーカイブデータ | ソビエト時代とその後のガイドブック(4)、ソビエト時代前の旅行本(3) | ソビエト前とソビエト時代のガイドブック(各2)、バクーツーリズム展覧会2010のレポート、国立政党公文書館の資料48ページ、インター |

| | | |
|---------|----------------|------------|
| | | ネットの多様なブログ |
| 法律・政策文書 | UNOの文書、宗教集団登録法 | 宗教団体登録法 |

(2) 概念について

①民族的 - 国民的パラダイムと国際性

1990年代に南コーカサス市の人口が迅速に均質化した後の今日、両市は、どんな21世紀の都市でも「現代的」で「躍動的」にする「国際性」を発見し「文化的寛容」政策を再び形成しているところである。さらなる「国際都市」になるための最近の方策としては、少数民族に向けた新しい司法的言い回し、新たな「コスモポリタン」なイベントの企画、法的慣習、礼拝所の活性化、聖地管理の民営化、政府が外国大使やビジネスリーダー、観光客を対象とする文化的「イベント活動」の企画などがある。

民族的な聖地や墓地、居住区のいくつかは、都市において疎外され、沈黙させられ、20世紀の間忘れられていた。今日、アルメニアの寛容政策の主な領域の1つは、エレバン市とその他のアルメニアの地域における非アルメニア人の歴史的記念物の保存と回復である。そのうちで、イラン文化センターによる青いモスクの回復は、最も際立つプロジェクトであった。このように、空間を再生する過程は国際的な力によりかたちづくられる。エレバンの場合には、イラン・イスラム共和国が貿易、エネルギー供給、新興する観光産業での役割を増加させることを通じて、南コーカサスにおける重要な地域大国として再出現した。「文化センター」というはっきりしない立場と共に、青いモスクの地域は、宗教的慣習やコミュニティでのイスラムの祈り、主にイランの学生やビジネスマン、地元民のため企画されるイスラム教の休日儀式のためのスペースを提供している。驚くべき点は、青いモスクがモスクとして機能し、祈りのための公的なイスラム教の場所であるという事実にもかかわらず、エレバンには公認のイスラム少数派がいないということである。

②場所とその過去

方法論と概念の両方において、本研究は現在の政治を理解する上で歴史的アプローチから得るものが多かった。エレバンの人口が民族的に均質であるという従来の支配的な認識は、社会主義体制下とその後に、都市の少数派と彼らの聖地がどのように解釈され、表現され、扱われたかに大きな影響を与えた。ある聖地の復興過程について、本研究では、社会的に構築された空間であるだけでなく歴史的空間でもある、とした。このアプローチにより、対象市の記憶とその社会主義体制

以前の多宗教の過去の文脈の中での聖地の理解のされ方の変容過程が明らかになった。この例として、青いモスクに歴史的に付いてきた異なる名称と機能を明らかにし、青いモスクが社会主義体制以前と社会主義体制下において、地元民、旅行者、新参者からどのように異なった認識をされてきたかを示した。それらは全て、場所を概念化し消費する独自の方法に訴えている。青いモスクの認識の多様性は、モスクの名称と機能の少なくとも3つの異なる軌跡と関連している一植民地エレバンの宗教的象徴として、ソ連近代主義の世俗的博物館として、イランからのイスラム教移民のための社会的文化的場所として。規制や民族・国民的パラダイムにもかかわらず、トランスナショナルな聖地は、その場所の意味の一般的な理解に疑義を呈している。

③宗教の問題

この概念は、聖地の政治的・社会的生活における「宗教の問題」の中心的な位置と関係がある。社会主義下の宗教は、常に非常に政治的な問題であった。宗教の抑圧と私的領域への周辺化、世界に対する一般的な閉鎖の後、「宗教の問題」は南コーカサスの社会において再び目に見える現象となったが、それは独自の様相を呈していた。神殿の再建、およびディアスポラ、移民および宗教的少数派による新しい聖地の形成は、公職者の側の宗教の問題に対する複雑な態度を招いた。主流派の宗教団体とその指導者らは、「他者」に対するある種の不寛容を示した。ここで重要な点は、世俗化や民族周辺化といったソ連の政策が、地域の宗教を「文化的なキリスト教」や「文化的なイスラム」のように民族集団と宗教のリンクを強調するように変容したことである。この観点からこれらの主流派の宗教は、国家遺産の一部と見なされている。よって宗教の復活と宗教の自由の点で地域政府と社会に挑戦したのは、その多くが少数派の宗教団体や類似団体(新しいキリスト教分派、ネオペイガニズム運動、サラフィドのイスラム教コミュニティ)であった。政府と市民は、法的に「未知の」主体や対象を扱う場合に不明確さに直面した。アルメニアのイスラム教は国際関係の外的文化機関と認識され、地域の文化遺産と認められることはなかった。バクーでのロシア正教コミュニティの宗教問題は、ポストコロニアルのディスコースとアゼルバイジャンにおいて変容し消えゆくロシア人とロシア語のステータスと絡みより複雑である。

「伝統的な」宗教の特権的ステータスと抑圧的な法律にもかかわらず、トランスナショナルな宗教コミュニティは自分達の空間を創り出した。どちらの事例においても、聖地

の社会生活では地元民が大きく関わっている。どの民族や宗教に属しているかにかかわらず、地元民の中には、聖地での集まりや文化的イベント、復興に積極的に参加する人もいる。聖地の復興過程は、トランスナショナルな勢力と金融ネットワークにより管理され、かたちづくられた。エレバンの青いモスクの修復はイラン文化センターにより融資され、バクーのロシア正教会はロシア系アゼルバイジャン人の裕福な一家から多大な慈善的支援を受けた。最新の民族誌に基づいて今回明らかになった知見は、ほとんど研究されていない領域を日本を含む国際的な研究で取り上げることにつながり、宗教の世界的な重要性および過渡期の社会で文化的多様性がどう扱われるかについての理論に貢献する。今後の問いは、様々なポスト社会主義の社会において、宗教の復活の過程と実践はどのように異なったかたちで経験され扱われているか、である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

- ① Tsypylma Darieva Placing a Mosque in Yerevan: Invisible place, multiple names, in: Berliner Blaetter. Journal for Anthropological and Ethnographic Research, 査読有, 2012, July (forthcoming)
- ② Tsypylma Darieva Purifying the Public Place? Baku Promenade as a Promenade of Urban Histories, in: Neprikosnovennyi Zapas (Sacrosanct Reserve), 査読有, No. 6 (80), 2011, 119-138 (in Russian)
- ③ Tsypylma Darieva Homecomings. New Patterns of Diasporic Mobility in Eurasia, in Antropologicheskii Forum, 査読有, Vol. 14, Summer, 2011, 230-251 (in Russian)
- ④ Tsypylma Darieva Come to Move Mountains! Diaspora and Development in a Transnational Age, in: Caucasian Analytical Digest, The Armenian Diaspora Today. Anthropological Perspectives, 査読無, No. 29, September 2011, 2-6

[学会発表] (計8件)

- ① Tsypylma Darieva, 'Placing a Mosque in Yerevan: Invisible place, multiple names?' スラブ研究センター研究会、2012年3月4日、北海道大学スラブ研究センター札幌
- ② Tsypylma Darieva, Come to move

mountains! Transforming an Ancestral Homeland in Armenia, Biennale of German Association of Anthropologist (DGV) Wa(h)re "Kultur"? ワークショップ 'Migrants as Agents of Cultural Transformation? Migration and Practices of Diversity between East and West', Department for Social and Cultural Anthropology, 2011年9月15-16日、ウィーン (オーストリア)

- ③ Tsypylma Darieva, Rethinking Homecomings? Diasporic Arrivals in Post-socialist Armenia, ESCAS ビエンナーレ (European Association of Central Asian Studies), 2011 年 9 月 20-22 日、ケンブリッジ (イギリス)
- ④ Tsypylma Darieva, Urban Pluralism in Postsocialist Capital Cities? 国際ワークショップ 'Capital Cities in Transformation: Spaces, Actors and Transfers' 招待講演、2011 年 9 月 8-9 日、フンボルト大学、ベルリン (ドイツ)
- ⑤ Tsypylma Darieva, Sights and Signs of Postsocialist Urbanism. Post-Soviet Eurasian City as a Post-Colonial City? 招待講演、2011 年 7 月 22 日、北海道大学スラブ研究センター、札幌
- ⑥ Tsypylma Darieva, Rethinking Homecoming. New Cosmopolitanism and Paradigmatic Diasporas, 大阪大学グローバル COE プログラム、招待講演、2010 年 12 月 13 日、大阪
- ⑦ Tsypylma Darieva, Diasporic Homecoming beyond the Ethnic Lens? Creative Cosmopolitanism in post-Soviet Armenia, 'Diaspora and Cosmopolitanism in Central and Eastern Europe. From Theory to Practice, at University College London, SSEES, 招待講演、2010 年 9 月 18-19 日、ロンドン (イギリス)
- ⑧ Tsypylma Darieva, Making a Place? The Spirit of the Baku Promenade between Europe and Asia, in 'Orient on Orient: Images of Asia in Eurasian Countries' 招待講演、2010 年 7 月 7-9 日、北海道大学スラブ研究センター、札幌

〔図書〕 (計 6 件)

- ① Tsypylma Darieva, Between Long-Distance Nationalism and 'Rooted' Cosmopolitanism? Armenian-American Engagement with their Homeland, in: U. Zieme (ed.) *East European Diaspora and Cosmopolitanism*, London: Routledge. 2012 (forthcoming.)
- ② Tsypylma Darieva,

Krisengesellschaften? in Thomas Mergel (ed.) *Krisen verstehen. Historische und kulturwissenschaftliche Perspektiven*, Frankfurt 2011 (Eigene und fremde Welten, Bd. 21), 2012 (in German, forthcoming.)

- ③ Tsypylma Darieva, Reconfiguring Public Space in the Eurasian City: Baku's Promenade, in Go Koshino (ed.) *Orient on Orient: Images of Asia in Eurasian Countries*. Sapporo: Hokkaido Univ. Press. 2012 (forthcoming.)
- ④ Tsypylma Darieva, Wolfgang Kaschuba and Melanie Krebs (eds.) *Urban Spaces after Socialism. Ethnographies of Public Places in Eurasian Cities*. Frankfurt: Campus Verlag, co-editors, 2011, 3-21, 136-161
- ⑤ Tsypylma Darieva, Nina Glick Schiller and Sandra Gruner-Domic (eds.) *Cosmopolitan Sociability. Locating Transnational Religious and Diasporic Networks*. London: Routledge, 2011, 128.
- ⑥ Viktor Voronkov and Tsypylma Darieva (eds.) *Rethinking the South Caucasus as special issue in Laboratorium. Russian Review of Social Studies*. St. Petersburg, Vol. 1 2010, 396.

〔その他〕
ホームページ等
<http://www.darieva.com/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

Darieva Tsypylma (DARIEVA TSYPYLMA)
筑波大学・人文社会系・准教授
研究者番号: 60588292

(2) 研究協力者

Satenik Mkrtichyan (SATENIK MKRTICHYAN)
Tbilisi State University / National Academy of Sciences in Yerevan,
Armenia・Research fellow

Lala Huseinova (LALA HUSEINOVA)
Eurasia Partnership Foundation,
Azerbaijan・Youth Programs・Program Manager